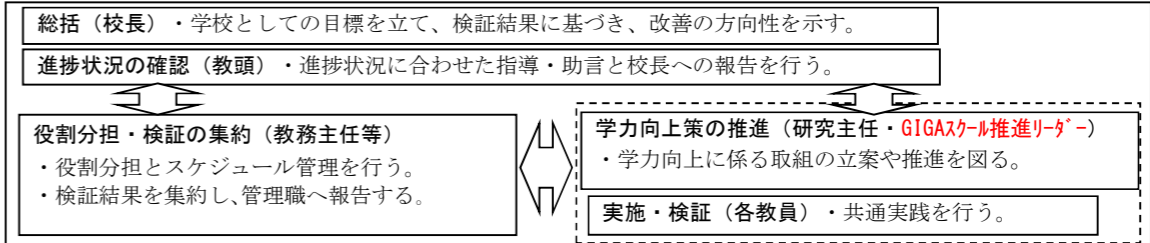


研究主題 主体的・対話的な学びをめざして

副題 学びに向かうICT活用を求めて



	学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証		
					児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況			
授業で行う取組	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 学習面では、学習意欲が低く集中できない児童がいる反面、意欲的で発表も積極的にできる児童もいるなど、学習面で個人差に大きく差がある。 国、県の学力調査や12月の評価問題では、他人の考えを理解して自分の考えとして説明したり、問題を解いたりすることに課題が見られた。 ペア・グループ活動が学習の役に立つと考える児童が平均で95%であり、友達との交流により理解できたり考えを広げたりすることができたと感じる児童の肯定的評価も9割を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校後、気持ちが安定しない子や不安を抱えている子、集中力が続かない子がいる。 授業では、ねらいを明確にしよさを実感できる交流を積極的に取り入れていくことによって、一人一人の理解にはつながっているが、分かったことを自分の考えとして相手に説明できる力には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のめあてをつかみませす」 ICT機器等の使用を工夫し、学習の見通しを立てる。 「『わかった』『できた』をまとめます」 板書等でキーワードを明確に示し、内容を確実に理解できるようまとめる。 	方法	(1) 「学習では、どんな課題で1時間学習していくか見通しを持つことができ、分からないことが分かった」(児童アンケート) (2) 単元末テストで確認	(1) 実践できた授業には、週案に㊦と記載 (2) 実践できた授業には、週案に㊦と記載		
					指標	(1) 肯定的評価 85%以上 (2) 平均80点以上	(1) 週3時間以上実施 (2) 週85%以上実施		
					結果				
	二学期					方法			
						指標			
						結果			
	三学期					方法			
						指標			
						結果			
授業以外で行う取組		<ul style="list-style-type: none"> 国、県の学力調査や12月の評価問題では、基本的な計算力にやや改善が見られたが、漢字の書き取りには課題が見られた。 家庭学習の時間ややり方に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着についての取組を継続しているが、成果がまだ表れない。 家庭学習の児童の取組に差が見られる。家庭の協力も難しいところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習から下校前まで様々な機会をとらえてドリルパーク（知識・技能の問題）に取り組む。 家庭学習への取り組み強化週間を設定し、指導する。 	方法	(1) 基礎学力定着自校テスト（ワカタケカップ）で確認する (2) 「家庭学習に取り組めたか」(児童アンケート)	(1) 実践できた時間には㊦と記載 (2) 家庭学習強化週間カードを使用し児童の意欲を高める	1学期の検証	
					指標	(1) 平均80点以上 (2) 肯定的評価が80%以上	(1) 週5回以上実施 (2) 目標達成者数80%以上	2学期の検証	
					結果	1学期の結果	1学期の結果		
						2学期の結果	2学期の結果		